

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

－ 2009年1月調査結果 －



2009年1月30日

## <結果のポイント>

- ◇1月の全産業合計の業況DIは▲71.3と、1989年4月の調査開始後、最悪値を2カ月連続で更新した。また、全産業合計の売上DI、採算DIも調査開始後の最悪値を記録。
- ◇業種別では、米国金融危機に伴う世界経済の減速や急激な円高の影響により、かつてないほど受注が落ち込んだ製造業の低迷が目立つ。製造業の業況DIは、調査開始以来、最悪値を記録した前月と同水準。
- ◇今後の景気悪化への不安から、消費マインドの冷え込みによる売上の大幅な減少を懸念する声も、各業種から寄せられている。
- ◇また、受注や売上の低迷に伴う採算悪化などの影響により、倒産・廃業や人員削減が増加、従業員DIは▲18.1と過剰感が強まっており、2002年3月以来の水準。特に売上の減少が顕著な建設業や製造業の悪化が目立つ。

---

## 調査要領

- 調査期間 2009年1月19日～23日
- 調査対象 全国の404商工会議所が2577業種組合などにヒアリング  
(内訳) 建設業：381 製造業：616 卸売業：235  
小売業：734 サービス業：611
- 調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

### ※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

---

【本件照会先】 産業政策部 TEL:03-3283-7836  
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp  
<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## <2009年1月調査結果の概要>

### 業況DIは、最悪値を2カ月連続で更新

- 1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲70.2）よりマイナス幅が1.1ポイント拡大して▲71.3となり、89年4月の調査開始後の最悪値を記録した。

産業別の業況D Iは、建設、製造でほぼ横ばいとなったものの、他の3業種では拡大した。卸売、サービスは調査開始後の最悪値を記録。

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や売上の低迷により、収益面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月から強まっており、今後は倒産・廃業の増加を懸念する声が各業種から寄せられている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### **【建設業】～従業員D Iは調査開始後最悪、売上D Iは98年7月以来の水準～**

- ・「仕事を受注しても低価格で採算性の低いものが多く、倒産や廃業も発生」（一般工事業）
- ・「住宅関連の受注が大幅に減少し、先行きも全く見通せない状況」（建築工事業）
- ・「景気の悪化に伴い、顧客の事業計画が延期となるなど、仕事の確保が困難」（建築工事業）

#### **【製造業】～売上D Iは98年10月以来、従業員D Iは02年2月以来の水準～**

- ・「納品先である鉄鋼メーカーの減産に伴い、受注が減少。一時休業する事業所も発生」（耐火物製造業）
- ・「仕入価格は下落しているが、売上も減少しているため、収益は悪化」（金属製品製造業）
- ・「自動車部品を中心とした大幅な受注の減少は、今後も回復の兆しはなく、従業員の解雇や事業所の休業も検討されている状況」（自動車・附属品製造業）

#### **【卸売業】～業況D I、資金繰りD Iは調査開始後の最悪値～**

- ・「売上が大幅に減少しており、従業員数の縮小も検討しなければならない状況」（農畜産水産物卸売業）
- ・「景気の先行き不安に伴う消費意欲の低迷により、果物の売上や飲食店からの受注が減少し、収益が悪化」（農畜産水産物卸売業）
- ・「住宅着工件数の減少と急激な円高に伴う安価な輸入木材の流入により、今後の業況は悪化する見込み」（建築材料卸売業）

#### **【小売業】～売上D Iは98年3月以来、採算D Iは98年2月以来の水準～**

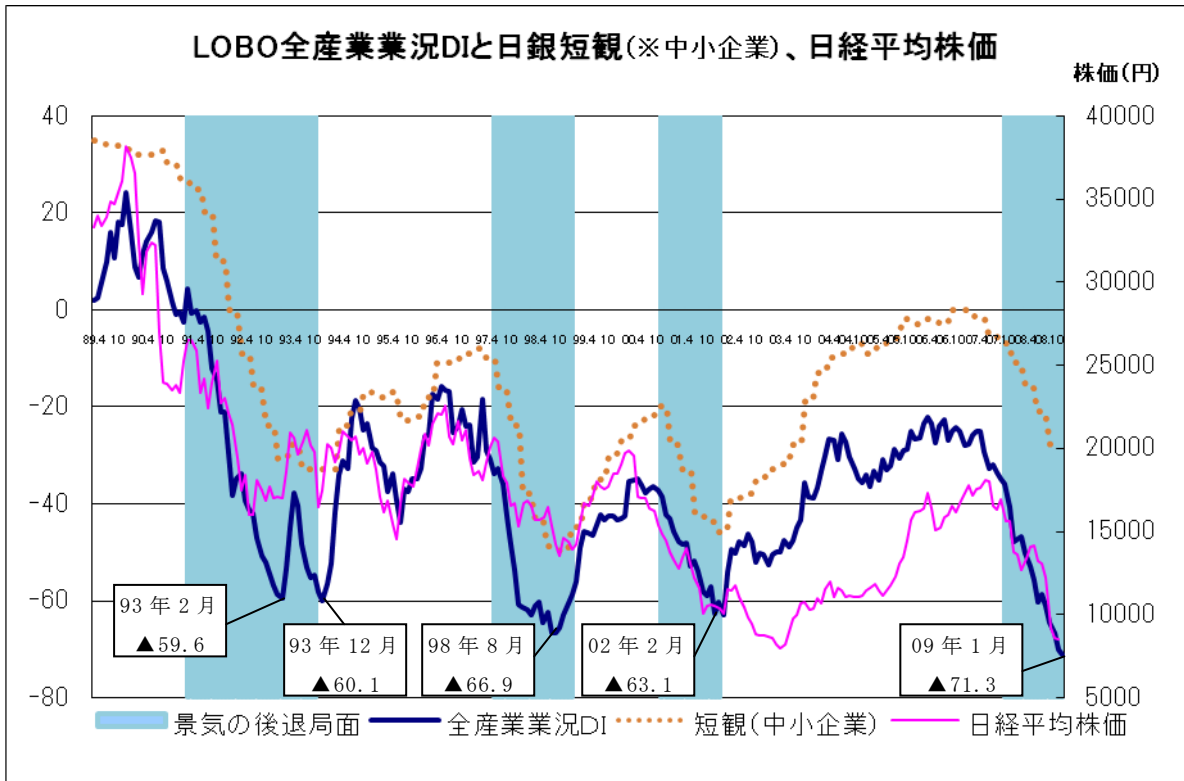
- ・「年始の初売りは来客数・売上ともに昨年を下回り、福袋の販売も不振と厳しい結果」（百貨店）
- ・「昨年11月以降、全ての商品の売上の落ち込みが続いている」（百貨店）
- ・「消費者の節約志向に伴うディスカウント店との競合で、収益が減少」（商店街）

#### **【サービス業】～業況、売上、採算、資金繰りD Iは調査開始後の最悪値～**

- ・「製造業を中心に、受注の減少や見送りが発生」（ソフトウェア）
- ・「以前に比べ新年会の開催が減少するなど、消費の冷え込みが顕著」（食堂・レス

トラン)

- ・「来客数の大幅な減少に伴う売上の悪化や価格競争の影響により、廃業する店舗が増加」(理容業)



※短観(中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



## 【業況についての判断】

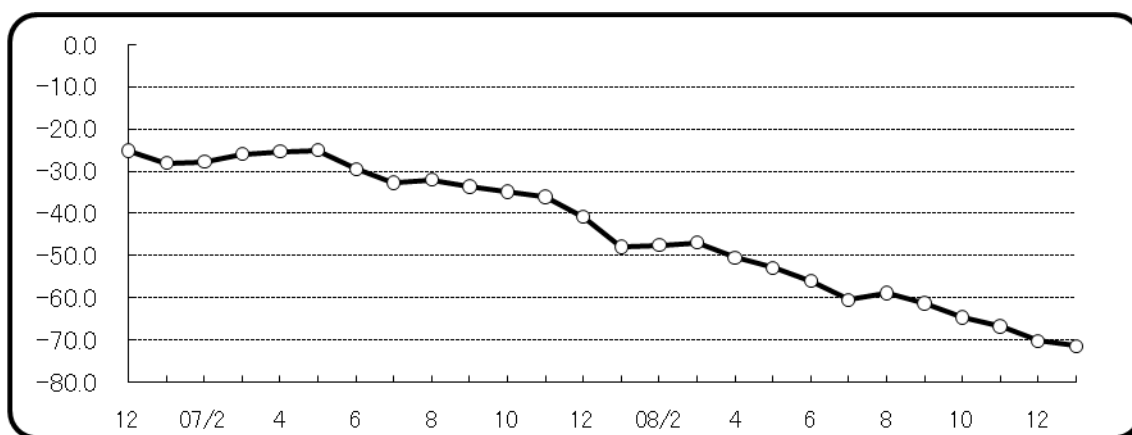
- 1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲70.2）よりマイナス幅が1.1ポイント拡大して▲71.3となり、1989年4月の調査開始後の最悪値を記録した。
- 産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造でほぼ横ばいとなったものの、他の3業種では拡大した。中でも、卸売、サービスは調査開始後の最悪値、小売は98年1月以来の水準。
- 向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲68.6と、昨年同時期の先行き見通し（▲44.3）に比べて24ポイント以上悪化している。
- 産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、16ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲58.8	▲61.2	▲64.6	▲66.7	▲70.2	▲71.3	▲68.6 (▲44.3)
建設	▲71.4	▲70.8	▲71.1	▲70.0	▲74.2	▲73.2	▲70.4 (▲54.3)
製造	▲55.4	▲59.8	▲59.8	▲68.3	▲72.7	▲72.5	▲72.7 (▲40.7)
卸売	▲64.7	▲59.7	▲63.8	▲67.6	▲67.6	▲71.6	▲69.6 (▲44.1)
小売	▲58.9	▲59.2	▲64.4	▲64.8	▲69.2	▲70.6	▲66.7 (▲46.2)
サービス	▲51.4	▲59.7	▲65.9	▲64.6	▲67.3	▲69.6	▲64.6 (▲39.7)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年1月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



## 【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が4.3ポイント拡大して▲64.7となり、10カ月連続で悪化、調査開始後の最悪値を記録した。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でもサービスは、調査開始後の最悪値を記録。
- 向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が▲63.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲35.2)に比べ28ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で16ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲45.2	▲46.5	▲52.9	▲53.8	▲60.4	▲64.7	▲63.4 (▲35.2)
建設	▲58.9	▲63.1	▲65.3	▲62.8	▲63.1	▲69.4	▲66.7 (▲50.2)
製造	▲41.0	▲41.6	▲47.7	▲51.2	▲59.2	▲65.4	▲69.2 (▲25.7)
卸売	▲46.0	▲43.6	▲42.3	▲50.0	▲60.0	▲60.1	▲59.5 (▲36.8)
小売	▲47.3	▲44.0	▲55.0	▲53.9	▲58.7	▲63.8	▲64.6 (▲38.8)
サービス	▲37.6	▲45.4	▲52.0	▲52.0	▲61.9	▲64.0	▲55.2 (▲30.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



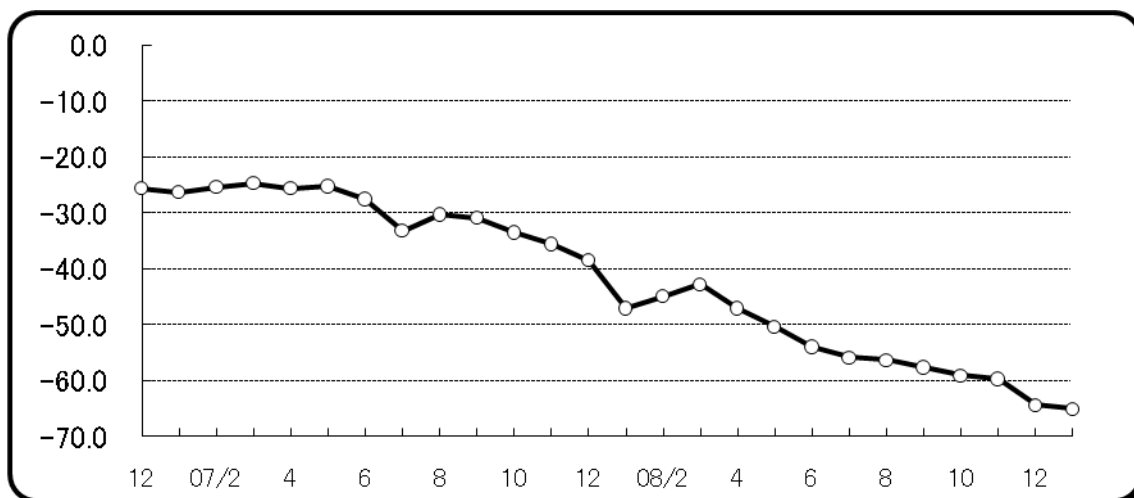
### 【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.7ポイント拡大して▲65.1となり、10カ月連続で悪化、調査開始後の最悪値を記録した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造でほぼ横ばいだったものの、他の4業種では拡大した。中でもサービスは、調査開始後の最悪値を記録。
- 向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲63.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲42.8)に比べて20ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で10ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲56.4	▲57.7	▲59.1	▲59.7	▲64.4	▲65.1	▲63.4 (▲42.8)
建設	▲70.4	▲70.8	▲70.1	▲67.5	▲66.4	▲68.5	▲64.1 (▲53.5)
製造	▲59.0	▲60.9	▲60.3	▲62.4	▲68.3	▲67.8	▲71.4 (▲41.9)
卸売	▲55.3	▲51.7	▲50.3	▲57.7	▲57.9	▲59.5	▲58.8 (▲36.2)
小売	▲49.2	▲51.5	▲53.9	▲55.1	▲61.4	▲62.3	▲61.4 (▲40.2)
サービス	▲53.0	▲55.7	▲60.4	▲58.2	▲65.3	▲65.7	▲58.8 (▲42.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	20年 8月	9月	10月	11月	12月	21年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲ 37.2	▲ 37.9	▲ 41.3	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 45.8	▲ 47.8 (▲ 28.6)
建設	▲ 56.3	▲ 52.0	▲ 55.0	▲ 55.2	▲ 56.8	▲ 51.6	▲ 52.7 (▲ 41.1)
製造	▲ 37.7	▲ 38.2	▲ 43.8	▲ 44.9	▲ 50.1	▲ 52.6	▲ 55.8 (▲ 25.6)
卸売	▲ 32.2	▲ 30.5	▲ 32.1	▲ 37.0	▲ 42.3	▲ 43.0	▲ 43.3 (▲ 23.9)
小売	▲ 32.7	▲ 30.8	▲ 35.1	▲ 34.9	▲ 38.2	▲ 38.6	▲ 39.6 (▲ 27.8)
サービス	▲ 30.5	▲ 39.6	▲ 40.2	▲ 38.1	▲ 44.3	▲ 44.3	▲ 47.1 (▲ 26.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、調査開始後の最悪値を記録した先月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で縮小したものの、サービスで横ばい、他の3業種で拡大した。中でも、製造、卸売、小売、サービスは、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲ 60.9	▲ 58.0	▲ 55.1	▲ 49.6	▲ 40.4	▲ 31.1	▲ 18.0 (▲ 47.2)
建設	▲ 71.3	▲ 62.5	▲ 61.4	▲ 55.7	▲ 46.6	▲ 35.0	▲ 21.6 (▲ 50.4)
製造	▲ 70.4	▲ 64.2	▲ 62.5	▲ 54.7	▲ 42.4	▲ 29.3	▲ 13.7 (▲ 52.7)
卸売	▲ 46.7	▲ 45.6	▲ 45.0	▲ 36.6	▲ 29.2	▲ 19.6	▲ 6.1 (▲ 41.4)
小売	▲ 53.7	▲ 54.6	▲ 50.0	▲ 44.9	▲ 35.5	▲ 30.4	▲ 19.4 (▲ 41.8)
サービス	▲ 58.4	▲ 57.7	▲ 53.4	▲ 51.2	▲ 44.5	▲ 35.8	▲ 23.6 (▲ 47.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲ 31.1となり、上昇感が5カ月連続で弱まった。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲ 8.1	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 10.8	▲ 16.3	▲ 18.1	▲ 21.5 (▲ 5.9)
建設	▲ 28.6	▲ 25.8	▲ 28.6	▲ 28.7	▲ 30.3	▲ 39.6	▲ 40.6 (▲ 19.6)
製造	▲ 7.7	▲ 8.0	▲ 13.4	▲ 13.8	▲ 22.9	▲ 27.5	▲ 32.7 (▲ 2.7)
卸売	▲ 14.0	▲ 14.3	▲ 13.4	▲ 11.3	▲ 15.3	▲ 17.0	▲ 18.4 (▲ 9.9)
小売	▲ 1.4	0.5	▲ 3.3	▲ 3.5	▲ 8.5	▲ 5.4	▲ 10.2 (▲ 1.5)
サービス	0.0	▲ 2.3	▲ 5.2	▲ 4.1	▲ 10.1	▲ 9.7	▲ 11.7 (▲ 4.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計の過剰感は2カ月連続で強まり、▲18.1となった(02年3月以来の水準)。産業別にみても、D I 値は小売で過剰感が弱まり、サービスでほぼ横ばいだったものの、他の3業種で強まった。中でも建設は、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で過剰感が強まる見通し。



## 【2009年1月の景気キーワード】

### ○ 受注の大幅な減少

各業種から、米国金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「景気の悪化に伴い、住宅・設備投資などの建設計画が減少または凍結しており、民間からの受注件数はこれまでにないほど悪化」（静岡・一般工事業）、製造業からは、「自動車関連の受注はほとんどなく、工作関連も60～80%以上の減少と非常に厳しい状況」（館山・金属加工機械製造業）、「1月に入り、受注量が90%以上減少、来月以降は受注がなくなる事業所も発生するなど、今後の見通しがつかない」（名古屋・非鉄素材製造業）、「住宅着工数の減少に伴い、木製家具の売上が減少。加えて原材料の高騰や安価な輸入家具の流入等により、厳しい状況」（静岡・家具製造業）、サービス業からは、「円高の影響による輸出の不振やメーカーの減産に伴い受注が減少し、売上が悪化」（横浜・運送業）などの声が寄せられている。

### ○ 消費マインドの冷え込み

米国金融危機の影響に伴う景気の悪化や雇用等への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「雇用不安が増大する中、個人消費の低迷に拍車がかかり、食品や家庭用品は堅調だが、衣料品の売上は減少」（山形・百貨店）、「消費者の価格への意識がより厳しさを増し、値下げの早期化、拡大を行っている」（福山・百貨店）、「先行き不安に伴う消費の低迷から、正月の売上は不振。来街者の減少に加え、購入単価・点数も減少」（銚子・商店街）、サービス業からは、「個人・企業とも節約意識が強く、先行きも不透明」（柏崎・すし店）、「雪祭り期間の宿泊の予約が減少、採算面への悪影響を懸念」（札幌・旅館）といった声がある。

### ○ 先行き不安感の拡大

こうした売上の低迷に伴う業況の悪化などから、先行きへの不安を訴える声も寄せられている。製造業からは、「仕事が全くなく、今後、存続できるのか不安」（さいたま・ブリキ缶等製造業）、小売業からは、「業況が厳しかった昨年と比べても売上が減少、先行き不安から消費の低迷は当分続く見込み」（銚子・その他の小売業）、「来客数・売上がさらに減少し、来月も一店舗の閉店が予定されている」（千葉・商店街）、サービス業からは、「昨年末だけでなく、年明け以降も売上が低迷、今後はさらに悪化する見込み」（水戸・食堂・レストラン）、「昨年末に同業者が閉店、今後、さらなる増加を懸念」（鎌倉・洗濯）との声もある。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年11月	先行き不安感の拡大	仕入コストの高止まり	消費マインドの冷え込み
12月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大
09年1月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

※本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは4カ月ぶりに拡大した。「原油価格は下落しているものの、採算面への好影響はほとんどない」、「住宅着工数の減少に伴い業者間の価格競争が発生し、収益が減少」、「金融機関の貸出姿勢が厳しく、資金繰りの悪化による倒産・廃業が増加」（すべて一般工事業）、「受注の減少に加え、同業者や不動産業者の倒産など、業界は非常に厳しい状況」（建築工事業）、「業況悪化の影響から、原価割れの受注を行う事業者も発生」（塗装工事業）といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは5カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは10カ月連続でマイナス幅が拡大した。「受注の減少傾向が強まっており、特に輸出向け製品は、円高の影響で苦戦」（織物製造業）、「受注の大幅な減少により残業はほとんどなく、従業員の賃金が大幅に減少」（自動車・附属品製造業）、「原油・原材料価格は下落しているものの、一方で受注価格の引き下げ要求があり、収益確保が困難」（他の輸送用機械製造業）、「正月の餅の売上は前年比2割の減少となり、従業員も過剰状態」（パン・菓子製造業）といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D I、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「昨年末から外国人観光客が減少した影響により、売上が悪化」（各種商品卸売業）、「資材価格が高止まりの一方、取引先より値下げ要求が厳しい」（農畜産水産物卸売業）、「業況が悪化し、従業員の削減も止むを得ない状況」（鉱物金属材料卸売業）、「百貨店や専門店での売上低迷に伴い、受注が減少」（家具・建具等卸売業）、「工芸品や宝飾品を中心に、高額消費の売上が低迷。今後も厳しい状況は続く見込み」（他の卸売業）といった声が寄せられている。
小 売	業況D I、採算D Iは6カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上回復の目途が立たず、設備投資の次年度への持ち越しや中止を検討」、「特に製造業に勤務する顧客の来店数が減少」（ともに百貨店）、「仕入価格は下落しているものの、競争激化に伴う販売価格の値下げにより、収益は減少」（その他の小売業）、「採算の悪化に伴う閉店が増加」、「イベントを開催しても来客数の減少に歯止めがかからない厳しい状況」（ともに商店街）といった声が寄せられている。
サービス	業況D I、売上D I、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「新年会の来店は少人数のみで、企業や団体客は皆無」（食堂・レストラン）、「業況の悪化に伴う閉店が増加する見込み」、「売上が減少し資金繰りが難しく、設備投資ができない状況」（ともに一般飲食店）、「円高の影響で外国人観光客数が対前年比で2割減少」（旅館）、「百貨店を中心とした高級衣料品の販売不振の影響で、クリーニングに出す衣服も減少」（洗濯）といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北ではマイナス幅が縮小しているが、実態は前月水準と同じと見られる。他のブロックは拡大またはほぼ横ばいとなっている。

○ なお、業況D Iが大幅に悪化した北陸信越は、国内外問わず製造業を中心とした受注の減少、四国は小売・サービス業を中心に、消費マインドの冷え込みによる売上の減少が、特に影響したものと見られる。

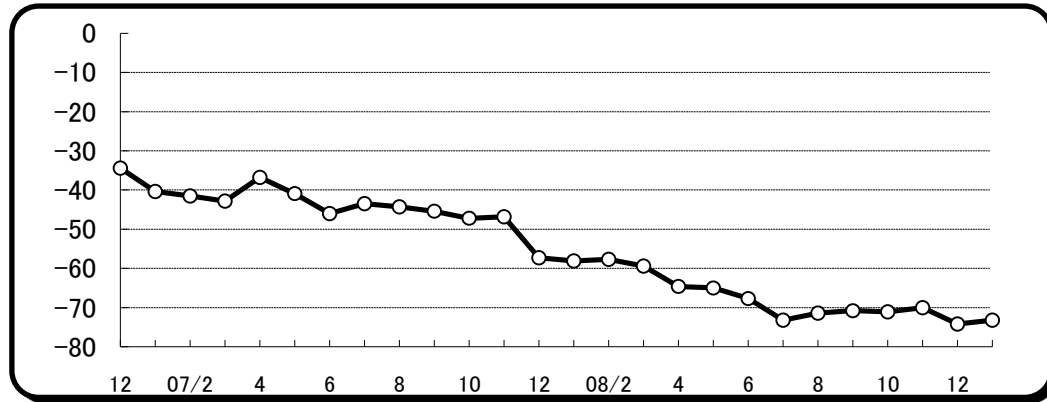
○ ブロック別の向こう3カ月（2月～4月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

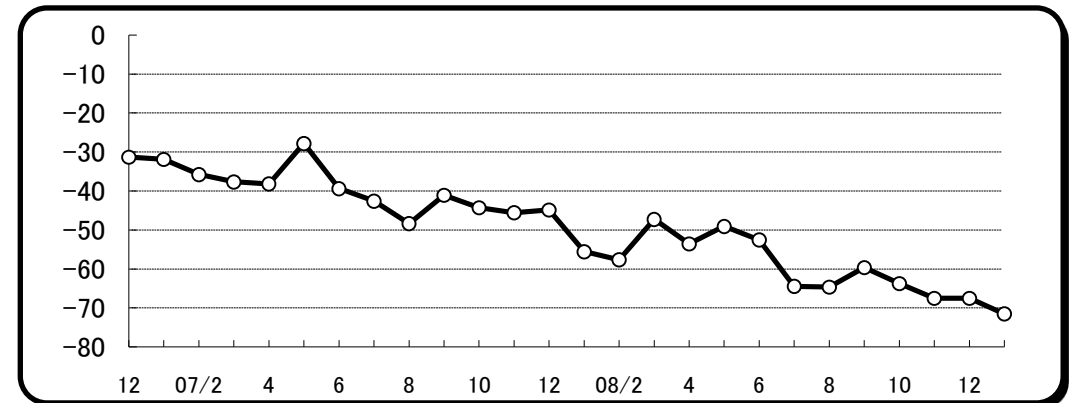
	08年 8月	9月	10月	11月	12月	09年 1月	先行き見通し 2～4月
全 国	▲ 58.8	▲ 61.2	▲ 64.6	▲ 66.7	▲ 70.2	▲ 71.3	▲ 68.6 (▲ 44.3)
北 海 道	▲ 55.2	▲ 56.1	▲ 57.6	▲ 58.8	▲ 70.5	▲ 63.5	▲ 64.1 (▲ 45.3)
東 北	▲ 66.7	▲ 68.7	▲ 63.0	▲ 61.0	▲ 78.2	▲ 72.9	▲ 71.2 (▲ 47.9)
北陸信越	▲ 54.7	▲ 52.7	▲ 64.9	▲ 69.7	▲ 67.6	▲ 75.7	▲ 75.0 (▲ 39.3)
関 東	▲ 59.2	▲ 60.7	▲ 66.4	▲ 66.2	▲ 71.1	▲ 71.6	▲ 67.7 (▲ 40.2)
東 海	▲ 54.4	▲ 58.9	▲ 63.6	▲ 63.4	▲ 67.6	▲ 70.3	▲ 66.7 (▲ 42.9)
近 畿	▲ 64.5	▲ 69.4	▲ 67.5	▲ 74.4	▲ 76.1	▲ 75.3	▲ 69.7 (▲ 55.9)
中 国	▲ 55.1	▲ 60.0	▲ 64.9	▲ 74.8	▲ 73.3	▲ 74.4	▲ 72.1 (▲ 51.5)
四 国	▲ 56.9	▲ 60.6	▲ 64.3	▲ 60.5	▲ 55.3	▲ 63.6	▲ 61.9 (▲ 39.3)
九 州	▲ 58.6	▲ 60.3	▲ 63.4	▲ 66.2	▲ 65.8	▲ 69.8	▲ 67.9 (▲ 38.8)

# 業況DI（前年同月比）の推移（全国）

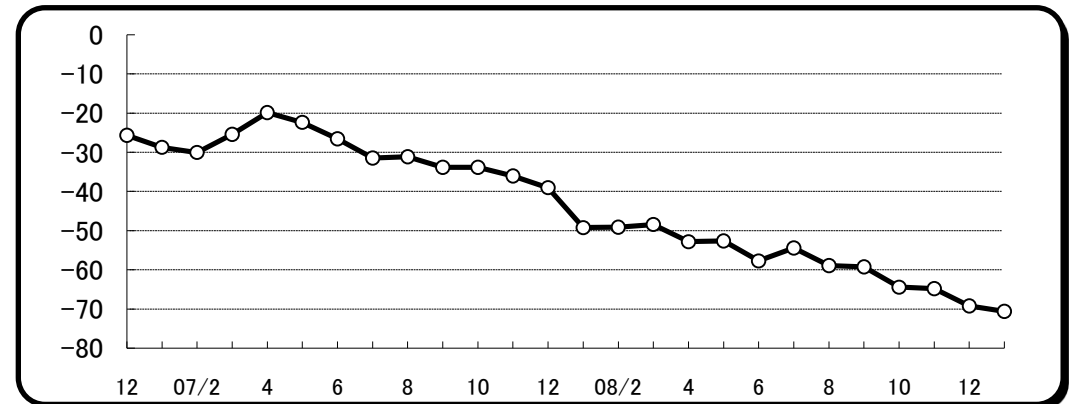
## 建設業



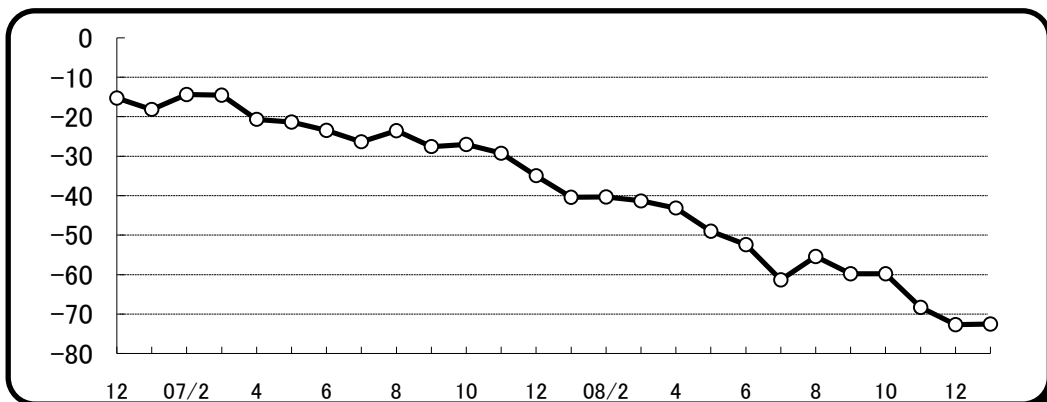
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

